



アマチュアオーケストラ

新交響楽団第144回演奏会

The New Symphony Orchestra the 144th Concert

O Mensch! du rath!
 Der Mensch liegt in grösster Noth!
 Der Mensch liegt in grösster Pein!
 Je lieber möcht' ich im Himmel sein!
 Da kam ich auf einen breiten Weg,
 Da kam ein Engelein
 und wollt' mich abweisen:
 Ach nein! Ich liess mich nicht abweisen.
 Ich bin von Gott und will wieder zu Gott!
 Der liebe Gott wird mir ein
 Lichtchen geben,
 Wird leuchten mir bis in das ewig
 selig Leben!

Aufersteh'n, ja aufersteh'n wirst du,
 mein Staub, nach kurzer Ruh!
 Unsterblich Leben! Unsterblich Leben!
 wird der dich rief, dir geben!
 Wieder aufzublüh'n wirst
 du gesät!
 Der Herr der Ernte geht
 Und sammelt Garben
 uns ein, die starben!
 O glaube, mein Herz, O glaube:
 Es geht dir nichts verloren!
 Dein ist, dein, ja dein, was du gesehnt!
 Dein, was du geliebt, was du gestritten!

O glaube: Du wärdst nicht umsonst
 geboren!
 Hast nicht umsonst
 gelitten!

Was entstanden ist, das muss vergehen!

Was vergangen, auferstehen!

Hör' auf zu beben!

Bereite dich zu leben!

O Schmerz! Du Alldurchdringer!

Dir bin ich entrungen!

O Tod! Du Allbezwinger!

Nun bist du bezwungen!

Mit Flügeln die ich mir errungen,

In heissem Liebesstreben werd' ich entschweben

Zum Licht, zu dem kein Aug' gedrunken!

Sterben werd' ich, um zu leben!

Aufersteh'n, ja aufersteh'n wirst du,

mein Herz, in einem Nu!

Was du geschlagen

Zu Gott wird es dich tragen!

指揮

小林 研一郎

KOBAYASHI Ken'ichiro, conductor

ソプラノ独唱 **大倉由紀枝**

OKURA Yukié, Soprano

アルト独唱 **伊原 直子**

IHARA Naoko, Alto

合唱 **武蔵野合唱団**

Musashino Chorus

伊福部 昭|管弦楽のための「日本組曲」

IFUKUBE Akira: Japanese Suite for Orchestra, 1991

《伊福部 昭・傘寿記念シリーズⅣ》

マーラー|交響曲第2番「復活」

Gustav MAHLER: Symphony No.2 in c minor "Resurrection", 1894

1994年7月23日(土)6:30pm**東京文化会館**

上野駅公園口前

Saturday, July 23, 1994 at Tokyo Bunka Kaikan (Ueno Sta. Koenguchi Exit)

アマチュアオーケストラ

新交響楽団第144回演奏会

The New Symphony Orchestra The 144th Concert



指揮：小林 研一郎

KOBAYASHI Ken'ichiro, conductor

ソプラノ独唱：大倉 由紀枝

OKURA Yukie, soprano

アルト独唱：伊原 直子

IHARA Naoko, alto

合唱：武蔵野合唱団

Musashino Chorus

伊福部 昭：管弦楽のための「日本組曲」

《伊福部 昭 傘寿記念シリーズIV》

IFUKUBE Akira : Japanese Suite for Orchestra, 1991

第1楽章 盆踊 *Nocturnal Dance of the Bon-Festival*

第2楽章 七夕 *Fête of Vega*

第3楽章 ^{ながし}演伶 *Profane Minstre*

第4楽章 ^{ねぶな}佞武多 *Festal Ballad*

—— 休 憩 ——

マーラー：交響曲第2番 ハ短調「復活」

Gustav MAHLER : Symphony No.2 in c minor "Resurrection", 1894

第1楽章：完全に厳粛で壮重な表情で

1. Satz: *Allegro maestoso; Mit durchaus ernstem und feierlichem Ausdruck*

第2楽章：大変落ち着いて、急がずに

2. Satz: *Andante moderato; Sehr gemächlich, Nie eilen*

第3楽章：静かに流れるように

3. Satz: *In ruhig fließender Bewegung*

第4楽章 <原光> — 「少年の魔法の角笛」より：壮重に、ただし質素に

4. Satz: „Urlicht“ (aus „des Knaben Wunderhorn“) *Sehr feierlich, aber schlicht (Choralmässig)*

第5楽章：スケルツォのテンポで、激しく飛び出して

5. Satz: *Im Tempo des Scherzo; Wild herausfahrend*

1994年7月23日(土) 6:30p.m.

東京文化会館大ホール

Saturday, July 23, 1994 at Tokyo Bunka Kaikan

主催：新交響楽団

協賛：ヤマハ株式会社電子楽器東京分室

●指揮

小林 研一郎

KOBAYASHI Ken'ichiro, conductor



東京芸術大学作曲科及び指揮科を卒業。作曲を石
柎真礼生、指揮を渡邊暁雄、山田一雄の各氏に師事。

1974年、第1回ブダペスト国際指揮者コンクール
第1位・特別賞を受賞。以来ハンガリー、ドイツ、
オーストリア、イギリス、フランス、イタリア、オ
ランダ、ベルギー、スイス、チェコスロヴァキア、
ポーランドなど、ヨーロッパ各国の主要オーケスト
ラを指揮。『プラハの春』をはじめ『ルツェルン・フ
ェスティヴァル』や『アテネ・フェスティヴァル』
など、多くのフェスティヴァルにも出演する。また、
イタリア、ハンガリー他でオペラも指揮し、アムス
テルダム・フィル、及び国立ハンガリー響のヨーロ
ッパ演奏旅行にも同行した。

国内では、NHK交響楽団をはじめ、在京の主要

オーケストラ、及び大阪フィル、京都市響などの定
期演奏会に出演するほか、都響、読売日響、日本フ
ィルのヨーロッパ公演やスロヴァキア・フィル、ブ
ダペスト・フィル、アムステルダム・フィル、モス
クワ・フィルの来日公演などを指揮した。

第2回ブダペスト国際指揮者コンクール審査員、
都響及び東響の正指揮者、京都市響常任指揮者を歴
任した。現在、日本フィル常任指揮者、国立ハンガ
リー交響楽団音楽総監督常任指揮者及び、ネーデル
ランド・フィルの首席客演指揮者、東京交響楽団、
名古屋フィルハーモニー、関西フィル首席客演指揮
者、東京音楽大学講師。

1986年11月にハンガリー政府より、リスト記念勲
章受賞。また、1994年3月には長年のハンガリーで
の功績に対し、星付中十字勲章が授与された。同勲
章はハンガリーの五種類の勲章のうち二番目に高位
のもので、国家元首クラス以外では最高位とされる。
レコードは、ブダペスト・フィルとの「ストラヴィ
ンスキー／春の祭典」「R・シュトラウス／ドン・フ
ァン」「同／ティル・オイレンシュピーゲルの愉快な
いたずら」（以上フンガロトン）のほか、「チャイコ
フスキー／交響曲第5番」（新星日響）、「マーラー／
交響曲第2番『復活』」（大阪フィル）、「同／交響曲
第5番」（日本フィル）、「ブラームス／交響曲第1番」
（東響）、「ロマンティック序曲集」（都響）、「幻想交
響曲」（ハンガリー響／ポニーキャニオン）、「ブラー
ムス交響曲全集」（ハンガリー響／ポニーキャニオ
ン）など多数。また、1993年12月には自らの体験に
基づくエッセイ「指揮者のひとりごと」（騎虎書房）
が出版された。1995年には「ベートーヴェン交響曲
全集」（ハンガリー響／ポニーキャニオン）が完成予
定。

今や、日本を代表する指揮者のひとりとして、世
界での活躍の行方が注目を集めている。

●ソプラノ独唱

大倉 由紀枝

OKURA Yukie, soprano



国立音楽大学卒業。東京芸術大学大学院修了。古田美代子、柴田喜代子、柴田睦陸、ニコラ・ルッチの諸氏に師事。1978年、第13回民音コンクール第1位受賞。79年、イタリアに留学、ミラノにてグアリーニ女史に師事。

81年「カブレッティ家とモンテッキ家」のジュリエッタでデビュー。その後「ジャンニ・スキッキ」のラウレッタ、「フィガロの結婚」の伯爵夫人、「コジ・ファン・トゥッテ」のフィオルデリージ、「ホフマン物語」のソプラノの4役、「魔笛」のパミーナなどを演じ、好評を博す。また90年の二期会創立40年記念公演「お蝶夫人」ではタイトルロールを演じる。

コンサート活動では小澤征爾指揮によるマーラー・交響曲第2番「復活」、同交響曲第8番（千人の交響曲）、ヴェルディ「レクイエム」など幅広いレパートリーを持ち、特に89年のN響でのオネゲル「火刑台上のジャンヌ・ダルク」（若杉弘指揮）では聖女マルグリットを歌い絶賛されるなど、国内外の著名な指揮者・オーケストラと協演している。日本を代表するソプラノの一人である。二期会会員。

●アルト独唱

伊原 直子

IHARA Naoko, alto



東京芸術大学卒業。同大学院修了。戸田敏子、中山悌一、E・ヘフリガーの諸氏に師事。1967年安宅賞受賞、70年芸術選奨文部大臣新人賞受賞。第8回ウィннаワールドオペラ賞（現ジローオペラ賞）大賞受賞。

69年「ラインの黄金」のエルダでオペラ・デビュー。71年西独政府給費留学生としてミュンヘン国立音楽大学に留学し、ヘフリガーに師事、かたわらベルリン歌劇場ほかドイツやスイス各地でオラトリオを歌う。75年仏ストラスブール歌劇場と専属契約を結び、ザルツブルク音楽祭などにも出演。80年二期会公演「カルメン」のタイトルロールを歌い、第8回ウィннаワールドオペラ賞大賞を受賞。89年には小澤征爾指揮のボストン響でマーラーの「復活」に出演した。91年には「神々の黄昏」を歌い、22年をかけて完結した二期会の〈リング〉4部作すべてに出演した唯一の歌手となり、名実ともに日本を代表するプリマドンナとしての地位を確立した。コンサートへの出演も多く、とりわけマーラーのスペシャリストとしての名声は高く、国内外主要オーケストラとの共演は数多い。新響の前回（83年）の「復活」でも共演。二期会会員。

●合唱

武蔵野合唱団

Musashino Chorus



1955年に結成されたアマチュアの混声合唱団。65年から今日まで小林研一郎氏の指導を受けている。定期演奏会をはじめ合唱コンクール、市民祭、テレビ・ラジオ出演、在京オーケストラの定期公演、年末の「第九」公演、外国の音楽団体との交流会、親善公演、合唱曲委嘱など幅広い活動を展開している。

特にハンガリー国立響とは、77年、80年、89年のハンガリー演奏旅行、88年、92年の日本における親善演奏会などで親交を深めている。この他にも、93年には、モスクワ・フィルとも親善公演を行い大成功をおさめ、国際文化交流の実を上げた（アマチュアとして日本初の海外公演と外来オケとの公演の主催）。また、三木稔「レクイエム」混声版初演、荻久保和明「縄文」「しゅうりえんえん」オーケストラ版初演、編曲「鳥の歌」初演を行い好評を博す。

今後の活動としては、11月に当団定期公演（松岡究指揮、プッチーニ「ミサ・デ・グロリア」、ブルックナー「テ・デウム」、オーチャードホール）、12月に「第九」（小林氏指揮、ザ・シンフォニーホール、武蔵野合唱団の大阪デビュー）、また95年には、小林研一郎武蔵野合唱団指揮30周年記念公演、ハンガリー国立響と第三回親善公演を行う予定である。

●富澤 裕（合唱指揮）

東京声専音楽学校卒業。同校オペラ研究科修了。作曲を故西崎喜太郎、青島広志の各氏に師事。作曲は合唱曲、オペラなどの声楽曲をはじめ室内楽曲やオーケストラ曲などがあり、神奈川フィル、ニューフィル千葉などのオーケストラで編曲を担当するほか「教育音楽」誌に作曲・編曲を連載している。1991年より日本フィルハーモニー協会合唱団指揮者を務める。現在昭和音楽芸術学院、昭和音楽大学附属音楽教室講師。また、91年より武蔵野合唱団を指揮している。

●松岡 究（合唱指揮）

成城大学文学部卒業。指揮を小林研一郎氏、音楽学を戸口幸策氏、ピアノ・和声を尾高悼忠氏、フルートを野口博司氏、声楽を山田茂氏にそれぞれ師事。1987年ドニゼッティ「ビビ・ラ・マンマ」を指揮してデビュー。91年文化庁在外派遣研修員として、ハンガリー国立響及び国立歌劇場に留学。帰国後の93年に、グノー「ロメオとジュリエット」の日本初演を指揮、読売新聞紙上で「きわめてバランス感覚に富んだ逸材」と絶賛される。現在、新神戸オリエンタル劇場管弦楽団常任指揮者、東京オペラプロデュース指揮者。87年より武蔵野合唱団を指揮している。

伊福部 昭：管弦楽のための「日本組曲」

上原 誠（打楽器）

IFUKUBE Akira : Japanese Suite for Orchestra

1926年、伊福部昭は札幌二中（現・札幌西高）に入学し、音楽好きの同級生・三浦淳史と出会った。その頃三浦は既に「音楽新潮」を講読し、あまつさえ外国から文献を取寄せることすらしていた。小学校高学年のころに西洋音楽に目覚め、独学でヴァイオリン、ギターを習得していた伊福部にとって、三浦によってもたらされたサティ、ドビュッシー、ストラヴィンスキーといった当時の日本ではほとんど知られていなかった名前は勿論、三浦という人の存在自体^{〴〵}超カルチャーショックだったにちがいない。

1926年といえば10月に新交響楽団（N響の前身）が結成され、押詰まって12月25日には大正天皇が崩御し、昭和と改元された年であった。

伊福部は三浦が「音楽をやる以上は作曲以外は無意味」と力説したのを真剣に受止め、密かに作曲を手がけるようになり、さらに16歳のころ三浦によってもたらされたストラヴィンスキーの音楽がその作曲に対する思いを決定的なものにした。

伊福部は少年時代、先住アイヌ民族の生活に深く関わることによって民族による審美観の違いに衝撃を受け、この原体験から徒らに西洋の美観を追従することを疑問に思い、それまでの西洋音楽に今一つ違和感を感じていた。そんな時に聞いたストラヴィンスキーの音楽に蒙古を中心とした汎アジア的な北方民族の親近性を感じとった伊福部は、「初めてこれがひそかに自分が音楽と考えていたもののように感じ」、「自分でもあるいは書けるのではないかと本気で考え」管弦楽法の勉強を始め、偏狭な地域主義ではないスケールの大きい民族主義的創作姿勢を確立していった。

1930年頃のことであろう、東京音楽学校（現・東京芸大）に作曲科が設置されたのが1931年、当時日本語で書かれた理論書はなく外国から文献を取り寄せ読み漁ったという。

のちに伊福部は当時を述懐し「彼は少年である私をそそのかし、作曲という地獄界に陥れたメフィストフェレスなのです」と語っている。

1932年に伊福部は北海道帝国大学農学部林学科に入学、文武会オーケストラに所属しコンサート・マスターとなり、しだいに演奏活動も活発に行うようになった。翌1933年には兄・勲のギター・リサイタルに知り合ったばかりの早坂文雄と共にトリオで協演し、習作「ノクチュルヌ」が兄によって初演され

た。そして、おそらくこの会の準備のために取り寄せられたのであろうスペイン人ピアニスト、ジョージ・コープランドの演奏するレコード「スペイン音楽集」もまた伊福部にとって衝撃的な出会いとなった。民族の熱い血潮のたぎるスペイン音楽に感動した彼は、その思いをコープランドに書き送り「作品を送れ」との返事に応じて1934年に作曲したのが「日本組曲」のピアノ独奏元曲「ピアノ組曲」である。しかし受け取ったコープランドはスペイン内乱の勃発のため初演を果たせず、1936年10月10日来日したロシア人音楽家チェレプニンが自ら主催した近代音楽祭で「盆踊」のみを初演した。そしてチェレプニンは他の作曲家の作品や伊福部の「日本狂詩曲」などと共に「チェレプニン・エディション」として国際的に出版し、併せて1938年にはヴェネツィアでの国際現代音楽祭に送り、ジーノ・ゴリーニにより全4曲が初演され入賞を果たした。

今回演奏する管弦楽版は1991年9月17日のサントリー音楽財団コンサート「作曲家の個展'91：伊福部昭」に際し、同財団の委嘱により編作されたもの。

この組曲は伊福部が中学入学の年の夏、友人に招かれて青森県の大鰐温泉^{おおわに}に滞在した際に初めて見た^{〴〵}ねぶたから受けた啓示に基づいて作曲された。ねぶたは今でこそ東北四大祭のひとつとして観光の目玉になっているが、本来は収穫の秋を控え^{みそぎ}睡眠魔を追払う「眠り流し」の行事と、盆入りの禊^{みそぎ}とが合わさったもの。伊福部は大地に根ざし逞しく生きる民衆が、心をひとつにして先祖と自然に対する感謝と畏敬の気持を力一杯表わす様子に圧倒され、同時に深い共感を覚えた。

「七夕」もまた盆入りの禊に中国の星祭^{きこうでん}「乞巧奠」^{ながし}が合わさったものだが、「演伶」については趣がやや異なる。「ながし」といえば思い浮かべる新内ではなく、祭の賑わいに集まった大道芸人、たとえば「角兵衛獅子」あたりだろうか。全曲を通し単なるノスタルジックな想いを越え、私たちの心の奥底に潜むメロディーを呼び覚ましてくれる。

初 演：1991年9月17日、井上道義指揮、新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏にて。

楽器編成：ピッコロ、フルート2、アルトフルート、オーボエ2、コーラアングレ、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、テナートロンボーン2、バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、トムトム3、コンガ3、キューバンティンパレス1対、吊リシンバル、太太鼓、タムタム、ハーブ、弦楽5部

マーラー：交響曲第2番 ハ短調「復活」

村井 功（ヴァイオリン）

Gustav MAHLER：Symphony No.2 in c minor “Resurrection”

『輪廻転生の国』の「復活」

ほとんどの東洋人の心の奥には「輪廻転生」という観念が住みついている。輪廻は仏教用語のひとつで、梵語で samsāra。車輪が回転してきわまりないように、衆生が三界六道に迷いの生死を重ねてとどまることのないことをいう。転生は文字どおり生まれかわること。ここでは合わせて生まれかわる意において輪廻転生としておく。日本人の若者の多くは「リンネテンセイ」と言われても、せいぜい新しいファッションブランドの名前か何かぐらいにしかならないところだろうが、「君の前世が何なのだったか言いあててあげようか。」などと言われると結構真顔になって聞き耳をたてたりするものだ。それほど日本人をはじめ東洋の人々は、生まれかわるということに大きな抵抗感を持たない。悠久の流れに身を委ねたようなこの思想は、生への潔さを説いているようにも見える。

一方、西洋人にはこの生まれかわるという感覚はない。「人間、死んでしまえば土に埋められて虫たちの餌になるだけだ。」と嘯^{うそぶ}いてはばからない。この世に対する執着心ははなはだ旺盛である。今ここでやらなければ、今ここで手に入れなければ……と、我こそは今をときめく極楽トンボ、この世の春をいかに謳歌せんとかばかりに人生をエンジョイすることに徹している。そういえば、身の廻りにこの手の西洋人がなんと多いことか。

最近では、シャーリー・マクレーンの「Out on a Limb」がとり沙汰されたり、転生を科学的見地からとらえようという動きがあったりするが、大多数の人から見れば、まだニュー・サイエンスと見なされ、好奇心のある人だけがのめり込んでいるといったところが現状ではないだろうか。

このように文化の異なる人たちの間には、絶望的な淵が横たわっているようだが、双方の正しい理解と、長い月日かけたコミュニケーションによって、互いの存在を認め合い、真の交流が生まれてくるはずだ。

こうしてみると、明らかに西洋人の一人であるマーラーが、自らの交響曲に「復活」という標題をつけたのも、何となくわかるような気がする。

マーラーがこの曲を手がけ始めたのは1888年。生みの苦しみを経て全楽章の完成をみるのは1894年である。終楽章に合唱を持ってきたという彼の念願は、ベートー

ヴェンの単なる模倣と受けとられる心配があつて、叶わずにいたが、マーラーが尊敬してやまないハンス・フォン・ビューローがカイロで客死し、ハンブルクで行われた葬儀の際、まさに天からの啓示が稲妻のようにマーラーを襲い、この曲を完成に導いたとされている。この時、ミヒャエル教会に流れていたクロプシュトックによる「復活」のコラールが、マーラーの交響曲第2番の行方を決めたのである。

マーラーは1891年からハンブルク市立歌劇場の指揮者を務めていたが、この「復活」を完成させた頃の彼の心の内では、かねてより秘めていた野心が理性の被覆を破らんばかりに突き上げていたはずである。そして、その野心は3年後に、ウィーン宮廷歌劇場の楽長という形で具体化する。また、その5年後にはアルマと結婚する。このように、人生の登り坂にあってもマーラーは常に死を見据えていた。やがて、自らの魂が神に導かれて生きかえることを確信しながら。

＊

新交響楽団は1979年からマーラーの交響曲を手がけ、全11曲をほぼ毎年演奏してこのシリーズを完結した。すべて故山田一雄先生のタクトによってである。10年にわたってマーラーの作品をとりあげ、熱心に練習し、演奏したからといって、その音楽性が血となり肉となったなどとおこがましいことを言うつもりはない。しかし、汗腺から吹き出る分泌物にその香りをとどめるぐらいにはなっているはずだ。

また、小林研一郎氏はマーラーに対して明快なイメージを持っている指揮者である。氏はある雑誌のインタビューに答えてマーラーの音楽を「雪国の、雪の白さに吐血された歎きのように……。」と語っている。

氏の熱い心に火照らされて、オーケストラはそれまで蓄えていたものを蒸発させ、芳香を放つであらう。それも、恐らくはマーラーの鼻孔を一度もくすぐったことなどないような芳香を。

初 演：1895年12月13日にベルリンにて作曲者の指揮の下に行われた。
楽器編成：フルート4（ピッコロ持替え）、オーボエ4（3番、4番イングリッシュホルン持替え）、クラリネット3（3番バス・クラリネット持替え）、E♭クラリネット2、ファゴット4（4番コントラファゴット持替え）、ホルン6、遠方のホルン4（7番～10番ホルン）、トランペット6、遠方のトランペット4、トロンボーン4、テューバ、オルガン、ハープ2、ティンパニ（奏者2人）、大太鼓、シンバル、タムタム（高・低）、トライアングル、小太鼓（できれば複数）、グロッケンシュピール、鐘3、ルーテ（むち）、遠方の打楽器（ティンパニ1、大太鼓、シンバル、トライアングル）、ソプラノ独唱、アルト独唱、混声合唱、弦5部

歌詞対訳 (編集部)

4. SATZ „Urlicht“

<Altsolo>

O Röschen roth!

Der Mensch liegt in größter Noth!

Der Mensch liegt in größter Pein!

Je lieber möcht' ich im Himmel sein!

Da kam ich auf einen breiten Weg;

Da kam ein Engelein und wollt' mich abweisen;

Ach nein! Ich ließ mich nicht abweisen!

Ich bin von Gott und will wieder zu Gott!

Der liebe Gott wird mir ein Lichtchen geben,

wird leuchten mir bis in das ewig selig Leben!

5. SATZ

<Chor und Sopran>

Aufersteh'n, ja aufersteh'n wirst du,

Mein Staub, nach kurzer Ruh!

Unsterblich Leben!

wird, der dich rief, dir geben!

Wieder aufzublüh'n, wirst du gesät!

Der Herr der Ernte geht

und sammelt Garben

uns ein, die starben!

<Altsolo>

O glaube, mein Herz, o glaube:

Es geht dir nichts verloren!

Dein ist, ja dein, was du geseht,

Dein, was du geliebt, was du gestritten!

<Sopransolo>

O glaube: Du wardst nicht umsonst geboren!

Hast nicht umsonst gelebt, gelitten!

<Chor und Alt>

Was entstanden ist, das muß vergehen!

Was vergangen, auferstehen!

Hör' auf zu beben!

Bereite dich zu leben!

<Sopran und Alt>

O Schmerz! Du Alldurchdringer!

Dir bin ich entrungen!

O Tod! Du Allbezwinger!

Nun bist du bezwungen!

Mit Flügeln, die ich mir errungen,

In heißem Liebesstreben

werd' ich entschweben

Zum Licht, zu dem kein Aug' gedrungen!

<Chor>

Mit Flügeln, die ich mir errungen,

Werde ich entschweben!

Sterben werd' ich, um zu leben!

Aufersteh'n, ja aufersteh'n wirst du,

mein Herz, in einem Nu!

Was du geschlagen, zu Gott wird es dich tragen!

第4楽章「原光」

<アルト・ソロ>

おお 紅の小さいバラ

人はこの上ない悩みの中にある

人はこの上ない苦しみの中にある

できれば私は天国にいたい

私が広い道にたどりつく

天使が私をさえぎった。

いや、私はむぎむぎと退けられなかった

私は神から出たもの、ふたたび神のもとに戻るのだ

神は私に微かな光を与えて下さるだろう

至福にみちた永遠の生に至るまで私を照らして下さい

第5楽章

<合唱とソプラノ>

蘇る、あなたは蘇るだろう

わが塵よ、つかの間の憩いの後には

永遠の命を

あなたを招いた方が授けて下さるだろう

ふたたび花咲くためにあなたは種として蒔かれるだろう

収穫の主が現れて

穀物の束を

私たち死者を集めてゆく

<アルト・ソロ>

どうか信じて下さい

あなたは何も失うものはないのに

あなたが憧れ、愛し、争ったものは

いかにもあなたのもの

<ソプラノ・ソロ>

信じて下さい、あなたがいたずらに生をうけ、

虚しく生き、悩んだのではないということを

<合唱とアルト>

生をうけたものは滅びるのがさだめ

滅びたものは蘇る

恐れおののくことはない

生きる覚悟を決めるのだ

<ソプラノとアルト>

苦しみよ、すべてを貫く苦しみよ

私はあなたの手から逃れ出た

死よ、すべてを征服する死よ

いまやあなたが征服された

かちえた翼を広げ

熱い愛の力ではばたこう

いまだかつて眼のとどこかぬ光の彼方へ

<合唱>

かちえた翼を広げて

はばたこう

私は生きるために死ぬのだ

蘇る、あなたは蘇るだろう

そう、一瞬のうちに蘇るだろう

あなたの打ち破ったものが、

あなたを神のもとへ導いて下さるだろう

芥川也寸志先生のこと

端正な顔立ち。にこやかにほほえまれている芥川先生の遺影のもと、沈痛な表情の新交響楽団。東京交響楽団もまた、自分たちが今日あるのは芥川先生がいたればこそと深い感謝を込めて奏する。

サントリーホールでの音楽葬。悲しみの日。ヨーロッパで先生の他界を知らされた僕にとってこのコンサートに駆けつけるための帰国は残酷であり、息苦しかった。自分を導いて下さった先生にもっと感謝の心を伝えなかった。

あまりにも早かったその死……。

しかし、先生の偉業は今もなお、われわれの心に強く残り、その作品は一瞬にして消え去っていく淡い陰のような作品群の中にあって、強く高く天空にまたたいている。

僕が先生との知遇を得た発端は、芸大作曲科在学中に現代音楽への懷疑から作曲の道を断念しようとした時に始まる。当時僕は、恩師、石桁真礼生先生にそのことを言い出せず、連日のように先生の家をまわりを徘徊していた。

ある日「コバケン、ここで何をしているの」。後年、芥川夫人となられた石桁クラスの前輩、江川眞澄さんであった。「なんだ、そういうことなら私が言ってあげるわよ」。この出来事が後年、僕が指揮の世界に身をおく布石となる。

先生は初めてお会いした時から（その時はすでに眞澄さんと結婚なさっていた）、いろいろと僕の将来の設計を考えて下さり、先生自身が作られたオーケストラ「新響」や、合唱団「鯨」などで練習をする機会を、そして「百万人の音楽」や担当していらしたTV番組に出演できる機会を与えて下さった。

また、東京交響楽団でのデビューコンサートの用意、曲に対する想い、そして指揮法のレッスンまでもして下さったのだった。新婚早々であった眞澄さんと、二人だけの時をお持ちになりたいだろうに、食事に同席させて下さることも再三であった。

1974年のブダペストでの国際指揮者コンクールの

時には、楽譜の手配、レッスンと、我がことのように面倒をみて下さった。優勝の報告に伺った時には、今まで見たことのないような笑顔で喜んで下さり、大切にされていた貴重なスコアをたくさん下さったものだ。いまの自分があるのは、先生の温かなお心なしには考えられない。

先生の功績の一つに、地域文化の育成、アマチュアの養成、そしてプロのオーケストラの擁護がある。アマチュアの手を離れ、プロのオーケストラで演奏するプロのオーケストラが多くなって欲しい、技術だけが一流ではプロとは言えないと言われ、日本フィルや東響の理事を務められ、窮地に陥るプロのオケの資金集めに奔走して下さった。長年の先生のこの努力が大企業のトップの理解を呼び、文化に対して目を開こうとしないわが国に代わって、大企業が援助を開始してくれたのは先生のご努力なしには考えられない。

アマチュア音楽家の育成にも情熱を燃やされ、亡くなられる直前には、世田谷区に区民オーケストラ及び合唱団を発足させ、合唱団「鯨」などの育成にも務められた。アマチュアとして最高の域まで育ち、数々の賞を得、日本の現代作品の紹介に努力している新交響楽団は、その情熱の極みといえるだろう。

先生の作品は、電子音楽や十二音技法を避け、国民主義的なもの、人間の心に訴えられるものをひたすら求め続けてこられた。作風としてオスティナートの手法を特に好まれたように思われる。僕が何度も取り上げさせていただいた「トリプティーク」「チェロ協奏曲」「エローラ交響曲」には、強い精神力と透明な心が息づいていて、演奏するものを、聞く人々を、深い感動の淵に誘ってくれる。

病状が悪化し、生への気力が少しずつ失われていかれたであろう時でもなお、先生の音楽への情熱は脈々と波うち続け、ベートーヴェンやブラームスの交響曲を聴き続けられたと聞く。

そしてこの世を後にされた時の曲は、ブラームスの交響曲第1番。ベートーヴェンの偉大さに押しつ

ぶされそうになりながら、長年かかって書きあげたブラームス最大の傑作。先生も、多くの楽聖の重みをはねのけて築きあげた御自分の人生を、ブラームスに移していたのかもしれない。

最終楽章のトロンボーンの奏するコラールの祈りが、大きな高まりを見せ、奔流となり、力強い足音でコーダに進み、巨大な勝利のファンファーレに変容する時、もしかしたらこの時、全力を出し尽くされた人生に満足されつつ先生の魂は天空に舞い上がり、五線の行間の宇宙のかなたで永遠の命を得られ、今もなお、われわれを励まし続けて下さっていると思えてならない。

新交響楽団

真夜中、静まり返った時刻に電話のベル。熟睡していた僕は、頭をなぐられたような状態のまま受話器を取った。芥川也寸志先生からだった。

「熱が40度近い。新響とのコンサート（ベートーヴェン第9）を振ることは不可能。急で大変だろうが代わりにおまえがやれ」といわれ受話器を置かれてしまった。

こういった立場に立たされた人間は、思考能力を全く失うものである。しばらく何をどうして、どのように組み立ててよいのか、目は宙をさまよひ、足はただ歩きまわりと、半狂人じみてしまったものだ。1時間程して、午前2時をまわっていたがスコアを取り出し勉強を始めたけれど、ただページ数だけが気になって空まわり状態が続いた。

それでも中学生の頃、手まわしの蓄音機で何百回となく聴いていたことや、そのスコアを外灯の光で見ていたことなどが好作用して、無事というか、ともかくはコンサートを振り終えることができた。見栄を張って楽譜無しで指揮したけれど、今思えば無謀なことをと身がちぢむ思いがする。新響がプロ並みの名人ぞろいだから、破綻をきたす部分が少なかったろうが、もしその録音等があったら僕は自殺ものだと思う。

その時A氏が打ち上げの席で「芥川先生でもう1

回やろうよ」と、僕に聞こえるように言っていたのには胸が痛んだ。隣にいたコンサートマスターの都河和彦君が、びっくりして制止する姿勢をとられたのが今も鮮やかに脳裏を焼いている。

芥川先生と長いことひたすら精進したのが、一瞬にして若い指揮者になり、高い次元で燃烧できず、くすぶったままで終わってしまったのだから、気持ちは痛い程理解できた。しかし……

新交響楽団はアマチュアとして最高の機能を有するオーケストラである。壺にはまれば時にはプロをものぐ名演も可、という能力を秘めている。

芥川也寸志先生の薫陶のもと着実に力をつけ、1976年にはアマチュアとして最高の名誉である、サントリー賞を受賞した。

コンサートマスターの都河君は、高校時代学生コンクールに入賞した程の才能だが、アマチュアとしてやっていきたいと東大を選んだ。このオーケストラはそういった特異才能の集団で構成される。1974年、コンクールを受ける僕のため、初見大会と称して、数曲を何が何やらわからなく振る僕につきあってくれた。

感謝の心は今も忘れていない。その後、20年間に何度か振るチャンスが来て恩を返せるかなと思ったものだが、運悪く互いのスケジュール調整がうまくいかず、延び延びになってしまった。しかし、いつの日かあの第9の借りを返せるようなコンサートを持たいたいものだ。現在も新響は、アマチュアオーケストラの頂点として、多くのアマの羨望の中をひた走る。

芥川先生亡きあと、目標を失うのではと危惧していたが、落ち着きを取り戻していると信じている。ますますの高みへ、そして世界にアマチュアでこのようなオーケストラがあるということを知らしめるためにも、精進と努力に期待してやまない。

*「芥川也寸志先生のこと」「新交響楽団」は「指揮者のひとりごと」(騎虎書房刊、¥1,900)より著者および出版社の許可を得て転載したものです。

XEROX
私たちは、ドキュメント・カンパニーです。



隣のAble。

—あのAbleが、私のオフィスにやってきた。

1台で、コピーできる、ファクスできる、同時にできる。場所もとらず、音も静かな、噂のデジタル複合機Ableが、私のオフィスにやってきた。Able 3200/3201誕生。

【仕事を変えるデジタル複合機。】●複写機とファクシミリの1台2役。コンパクト化と前面給紙の省スペース設計。●同時にコピーとファクスできるデュアルアクセス機能*。●静音設計でオフィスワークも快適に。【デジタルコピーで高品位なドキュメントづくり。】●400dpiの高解像度で、再現性がひととき鮮やか。●20枚/分(A4ヨコ)の快速コピー。●50%から400%まで1%きざみで自在に縮小・拡大。●デジタルならではの場所をとらない電子ソーター。【レーザーファクシミリでより精細に、より高速で。】●本や厚みのある原稿もコピーガラス面にセットすれば、そのまま送信。●送信は3秒の高速送信(Able 3201、オプションのG4モード使用時)。●カットペーパー 普通紙なので、書きこみ・ファインリングも自在。●写真なども64階調で微妙な濃淡まで鮮やかに送信。●50%から400%まで1%きざみのズーム送信。

*メモリー送受信中。

コピー&ファクス
デジタル複合機

Able[®]
3200/3201

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立された自主運営のアマチュア・オーケストラです。創立当初から名誉音楽監督の故芥川也寸志の指導のもとに活動を行い、旧ソ連（1967）および国内各地での演奏旅行をはじめ、ベートーヴェン・チクルス（1966）、ストラヴィンスキー・バレエ音楽三部作一挙上演（1975）などの演奏活動を行ってきました。

1976年の創立20周年記念演奏会「日本の交響作品展」によって「芥川也寸志と新交響楽団」はアマチュア・オーケストラとして初めて第8回鳥居音楽賞（現サントリー音楽賞）を受賞しました。演奏されることの少ない日本人作曲家の作品を積極的に紹介していこうという邦人作品シリーズはその後毎年1回ずつ10年間継続され、これら演奏会のライヴ録音はレコード・CDとなって国内外で高い評価を受けています。その後もショスタコーヴィチ交響曲第4番の日本初演（1986）、中国人作曲家を招聘しての「中国作品展」（1987）、細川俊夫に作曲委嘱した「ヒロシマ・レクイエム」の初演（1989）など、また1991年には「現代の交響作品展'91」を石井眞木の指揮で松村禎三、石井眞木、伊福部昭の作品、92年には同'92として委嘱作品を一般公募、若手作曲家・夏田昌和の作品を取り上げるなど、さまざまな新しい企画を実現させています。

1979年から88年にかけては名誉指揮者・故山田一雄によるマーラー交響曲全曲シリーズを11回にわたって行いましたが、これは日本のオーケストラでは同一指揮者による初めてのマーラー交響曲全曲演奏

となりました。

1993年9月にはベルリン芸術週間事務局からの招待を受けてベルリン・フィルハーモニー大ホールで藤田正典の委嘱新作、安倍圭子のマリimba独奏による伊福部昭の「ラウダ・コンチェルタータ」、山口恭範およびベルリン・パーカッション・アンサンブルの打楽器独奏による石井眞木の「浮游する風」を石井眞木の指揮で演奏しましたが、この演奏会はベルリン、フランクフルトなどドイツの主要6紙で絶賛されるなど、大きな成功を収めました。

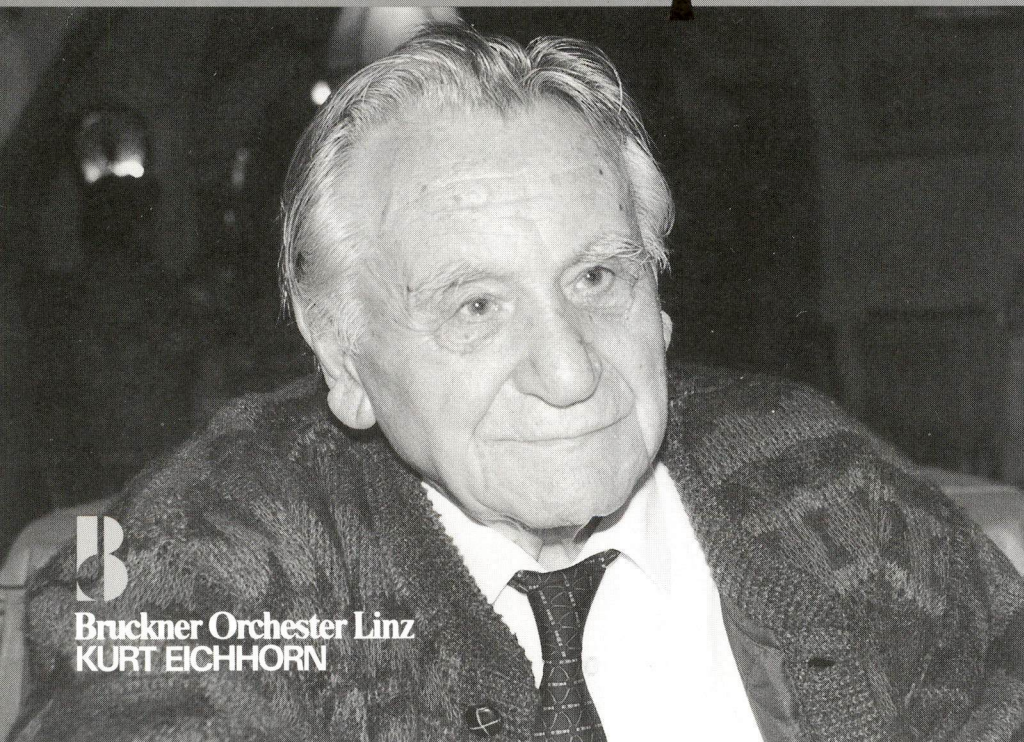
団員は現在約130名で、毎週土曜日の夜が練習です。年4回の定期的な演奏会の他に、各地での依頼演奏会、音楽教室などの演奏活動も積極的に行っています。

●団員を募集しています

新交響楽団は会社員、教員、学生、主婦などなど、さまざまな職業・年齢にわたる団員で自主運営されているアマチュアオーケストラです。名誉音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動してくために、あなたの力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度お気軽に練習をご覧ください。オーディション等の詳細は下記までお問い合わせ下さい。

入団費は3,000円、団費月額4,000円。練習は毎週土曜午後6～9時、労音十条会館（JR京浜東北線東十条駅または埼京線十条駅下車）他にて。連絡先：安田浩三 ☎03(3352)5077





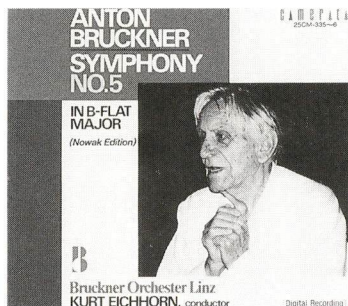
B

Bruckner Orchester Linz
KURT EICHORN

ブルックナー指揮者の力量が問われる第5番に、
深い味わいと感動に満ちた最新録音が登場!!

アイヒホルン最高の名演。

ブルックナー： 交響曲第5番 アイヒホルン リンツ・ブルックナー管弦楽団



●ブルックナー

交響曲第5番変ロ長調(ノヴァーク版)

クルト・アイヒホルン指揮

リンツ・ブルックナー管弦楽団

[CD]25CM-335~6(2枚組) ¥5,150(税込)

★デジタル最新録音:1993年6~7月、リンツ・ブルックナーハウス

絶賛発売中

1996年"ブルックナー没後100年記念"

アイヒホルン=リンツ・ブルックナー管弦楽団



●ブルックナー 交響曲第7番ホ長調 (ノヴァーク版)

[CD]32CM-165
¥3,008(税込)

「レコード芸術」推薦



●ブルックナー 交響曲第2番ハ短調 (1872&1873年稿) 世界初録音

[CD]30CM-195~6(2枚組)
¥5,634(税込)

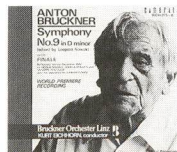
「レコード芸術」特選



●ブルックナー 交響曲第8番ハ短調 (ノヴァーク・1890年版)

[CD]32CM-225
¥3,008(税込)

「レコード芸術」準推薦



●ブルックナー 交響曲第9番〔終楽章付〕 (ノヴァーク+1992年12月復元版) 世界初録音

[CD]30CM-275~6(2枚組)
¥5,634(税込)

「レコード芸術」特選

今秋発売予定

●ブルックナー 交響曲第6番イ長調 (ノヴァーク版)

[CD]30CM-345
¥3,090(税込)

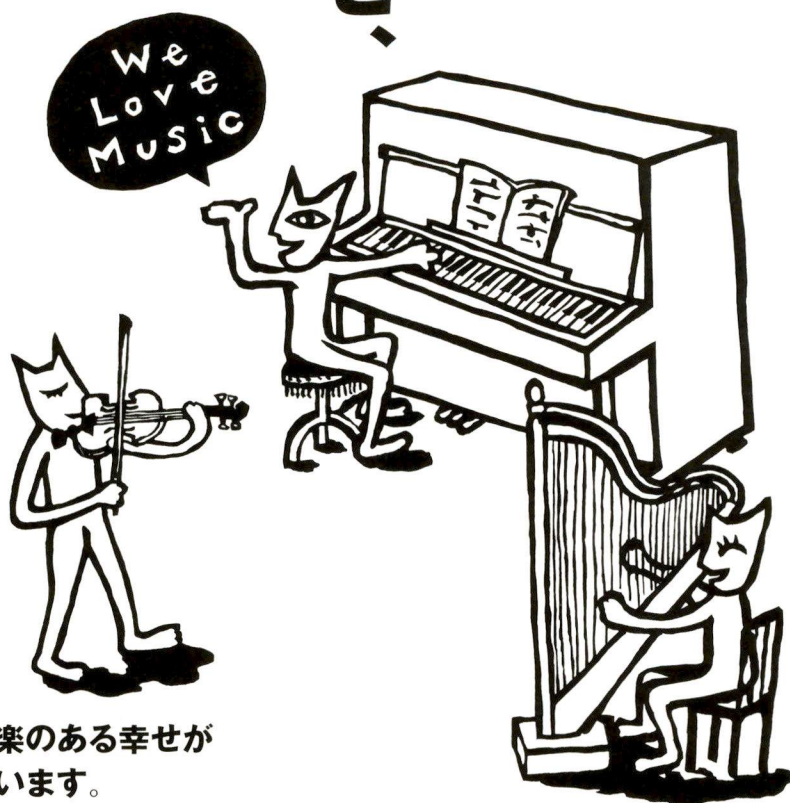
★デジタル最新録音:
1994年3月、
リンツ・ブルックナーハウス

「ブルックナー交響曲全集」進行中!

camera
カメラータウキョウ

〒150 東京都渋谷区神宮前5-50-6 青山テネックス8F ☎03-3498-5890 FAX. 03-3498-6239

音楽のある幸せ、
届けます。



この先もずっと、音楽のある幸せが
続いてほしい、と思います。
誰もが手軽に、音楽を楽しめるように。
つくる人も安心して創作活動に
専念できるように。
JASRACは著作権の管理を通して、
音楽の未来を守っています。

JASRAC

日本音楽著作権協会

〒105 東京都港区西新橋1-7-13 ☎(03)3502-6551